

浜辺の考古学、歴史学



◀寛永通宝

石狩浜にはいろいろな物が漂着します。中でも石狩川河口付近には石狩の考古学や歴史に関係する漂着物が見られます。私はこの種の漂着物を仮に「考古系漂着物」、「歴史系漂着物」と呼んでいます。今回はそれらをご紹介します。

まず「考古系漂着物」には、土器片や黒曜石などの石片があります。これらは、そのほとんどが今から1500年前から1000年前のものでしょう。厚田区では7000年前の遺跡が海中から発見されたことがあります。年代や遺物の付着物などから海底に遺跡があつて揚がったのではなく、石狩川や支流沿いにある遺跡から流れ出たものと考えられます。

次に「歴史系漂着物」ですが、陶磁器の破片や古銭などがあります。今のところ時代的には江戸時代末のものがほとんどです。代表的なものは「越後産焼酎徳利」の破片や「寛永通宝」です。また、最近では鹿の角を加工した「根付



▲遺物が漂着する石狩浜

け」なども採取されています。やはり、これらもフジツボなどの付着物はなく、石狩川から流れ出たと考えられます。おそらくこれらは本町・八幡町付近から流れたのではないかと考えています。

これら紹介した漂着物は、石狩川河口域の遺跡の立地や歴史を

知る手がかりの一つです。殊に「歴史系漂着物」の中には石狩市の歴史や当時の物資流通を知る上で貴重な資料が含まれています。

(石橋孝夫)

▲「越後産焼酎徳利」の破片。
写真左下は根付け

1500年前の土器片▶

越後産焼酎徳利▶
(厚田区出土、高さ25cm)

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711 ✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp